

赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」

第12回助成決定に当たって

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」（以下、「ボラサポ」と略）の第12次の助成先を決める配分委員会（第14回）を開催しました。今回は今後の助成方針について協議するため、第10回運営委員会との合同委員会としました。

基本的には、応募要項ならびに本ホームページ掲載の「（第1回から第11回までの）助成決定に当たって」の考え方に沿いながら、審査しました。

以下に、今回の応募案件の審査過程で検討した事項について整理し、助成先の選考にあたっての考え方をまとめました。

1. 第12次の応募状況と助成決定状況

（1）応募状況

9月10日から9月25日を受付期間とした第12次募集では、1か月未満の「短期活動」に67件・2,689万円、1か月以上の「中長期活動」に93件・2億3,837万円、1,000万円を上限としたもう一つの「中長期活動」に4件・3,417万円の応募がありました（合計：164件・2億9,943万円）。

第11次と比較すると全体で半分以下に応募件数が減り、これまでの応募件数を見ると第1次に次いで2番目に少ない応募となりました。運営委員会、配分委員会でもこの応募の減少について要因を考えましたが、被災地の状況を考えると活動自体が減少したとは考えられず、はっきりとした結論には至りませんでした。次回、第13次の応募に向けてこれまで以上に周知に努めることとし、団体に応募を呼びかけたいと思います。

（2）全般的な傾向

第12次応募の活動では、次のような傾向が見られました。

- ①特に中長期活動において助成決定した活動名の中に「コミュニティ」という言葉が多く見られました。しかしその内容はさまざまで、住民同士が集まれる拠点を作る活動、情報誌を発行する活動、県外に避難した人たちの支援活動など、目的は同じでも支援活動が多様化していることが応募書から伺えました。それはまた今生じているコミュニティ自体が多様化していることを表しているのだと考えられます。
- ②短期活動では、助成が決定した団体のうち約86%は以前ボラサポの助成を受けたことがある団体であり、継続してボラサポを活用しながら活動を行っていることがわかりました。中長期活動になるとその割合は61%となり、代わりに初めての応募団体の割合が19%に上りました。全体的な応募件数は減っているものの、今も新規の応募が少なからずあることを認識し、改めて周知活動を行っていきます。

(3)今回、検討を行った助成の考え方について

[第12次の審査について]

①ボラサポで複数回助成している案件の優先順位について

短期、中長期、いずれも同様の活動にボラサポとして複数回助成している案件が多く見られました。これらについて「複数回の助成を行なったので役割を果たした」と捉えて優先順位を下げるのか、「継続した活動を行っていること」を評価して優先順位を上げるのか、議論を行いました。基本的にはこれまでと変わらず応募要項に示している「審査にあたって重視する点」に基づき判断を行うこととしました。ボランティアバス事業など一部の事業については「第10回助成決定に当たって」に示した基準を満たしているかどうかを判断の材料としました。

また、必要に応じて連携先の担当者へのヒアリングを実施しました。その結果、現地からの強い要望に基づき活動を実施していると考えられる活動、連携先に記載することについて事前の確認が不十分である活動がありました。審査の際にはこうした点も加味して判断を行いました。

[第13次以降の審査について]

①1000万円を上限とした活動について

助成財源の状況、1000万円を上限とした活動の応募内容から判断し、応募の受付は次回第13次を最終とし、2014年5月に応募受付予定の第14次以降は行なわないものとします。

元々この1000万円を上限とした活動は長期の活動を応援するために始めたものでしたが、ボラサポの助成対象期間が残り少なくなることによってこの条件を満たすことが難しくなると判断しました。またこの枠組に応募する際には、300万円を上限とした活動との違いとして、数年後どのような地域を目指すのか、そのためにどのような活動を行っていくのか、実施内容のみならずスケジュールや目標など十分応募書に記載いただくことを「第10回助成決定に当たって」で求めました。しかしこの点について応募書から読み取れる活動は少ない状況が続いていました。一方、そうした活動も300万円を上限とした活動としての応募であれば助成の可能性が考えられるという意見が出たため、次回第13次を最後の受付とし、第14次以降は応募を行なわないこととしました。

2. 第13次以降のボラサポのしくみについて

(1) 助成対象期間について

現在の応募要項では対象期間を2015（平成27）年3月31日までとしています。しかし来年度も3回の応募受付・助成決定を考えていることから、対象期間を半年間延長し、2015年9月30日までを対象とすることにしました。最新の応募要項をよく確認し、活動の見通しがつけられる範囲での応募を行ってください。

(2) 寄付の受付について

運営委員会との合同委員会で議論した結果、ボラサポについては2013年12月までにお預かりした寄付額の中で運営していくことにしました。しかし、被災地ではまだ支援や支え合いのしくみが必要とされている状況を鑑み、2014年1月以降は「ボラサポ2」として新しい枠組みでの寄付募集を行っていきます。このボラサポ2としてお預かりしたご寄付は、ボラサポとしての最終の助成決定が終了した2015年4月以降に、被災3県での支え合い活動を中心とした活動への助成金とする予定です。このしくみについてはこれから現地の状況も踏まえながら検討を続けますが、東日本大震災に対する継続した支援として、みなさんにご協力をお願いしていきます。この点については別途お知らせしていきます。

(3) 住民支え合い活動助成について

岩手・宮城・福島の住民同士の支え合い活動を応援するこの枠組みに対して、2年目となる今年、3県で多くの応募が寄せられました。今後、仮設住宅から復興住宅等への移転が始まる中、また新たなコミュニティを構築しなくてはならない可能性が高く、その際のきっかけづくりとして大きな期待が寄せられていることが3県の共同募金会の報告からわかりました。こうした状況を踏まえ、2014年度についても引き続きこの助成を継続していくこととします。この助成については下記のページで報告しています。

住民支え合い活動助成：<http://www.akaihane.or.jp/er/p9.html>

3. 終わりに

まもなく震災から丸3年を迎えようとしています。発災直後と比べてライフラインなどは確かに復旧が進みましたが、復興に向けさまざまな課題が今も残されていることを応募書の内容などからも感じています。仮設住宅から復興住宅に引っ越す際や、高台移転をするときに今までのコミュニティがまた壊れてしまうのではないかという不安、県外に避難している人にとっていつ戻れるのか、戻ることができないのかそれを判断する情報すらないという状況など、一口で表すことのできない課題が多く存在しています。ボラサポとして、こうした課題に寄り添いながら続けられている活動を残りの4回の助成を通して応援していきたいと考えています。またそれ以降についても、被災地で必要とされていることをよく判断しながら、ボラサポとしてできる支援を行っていきます。

以上

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」
配分委員会 委員長 山崎美貴子